

## 夢づくり協働推進事業の実施状況 10

### 事業名

フードアクション備中プログラム

### 事業の概要

食料自給率向上45%運動を県民運動として推進するため、備中管内の農林水産業団体、消費者団体、商工・流通団体、教育・行政機関等131団体により設立された「備中地域食料自給率向上対策会議（会長：備中県民局長）」が中心となり、構成団体の連携強化とそれぞれの立場での主体的な活動を促しながら、生産力の強化による食料の安定供給の確保と食料自給率向上の必要性について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など食料自給率向上に向けた各種取組を展開した。

### 協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
幹事会(19団体)	[県民局、市町、農協、消費生活問題研究会、食育推進会議等] ・構成団体(各協働主体)との連絡調整、提言(活動内容等)検討
生産者・農林漁業関係団体(39団体)	[農協、漁協、森林組合、農業委員会、農業士会、生活交流グループ等] ・地元産食材のPR活動(各種イベント、食農教育活動の展開) ・6次化商品の開発・農商工連携、学校給食への地場産食材の供給 ・加工用米・麦・大豆等の生産拡大、耕作放棄地の解消
商工業・流通業者(27団体)	[商工会議所、商工会、酒造組合、卸売市場、おかやまコープ等] ・県産食材・国産食材の利用拡大、 ・スーパー等での地産地消・6次化商品販売コーナーの常設 ・飲食店等での地元産食材を利用したメニューの開発 ・農商工連携による県産農林水産物の利用促進、米粉製品の販売促進
教育・行政機関(23団体)	[農政局、県民局、市町、教育委員会、学校給食会等] ・意識啓発(パンフレット配布、イベント・出前講座の開催、HP開設) ・学校給食での地場産食材の利用促進や米飯給食の回数増加 ・日本型食生活の啓発、米粉製品の利用促進 ・地場産食材取扱店等の登録、展示会・商談会等の開催支援 ・農林水産物の生産振興、生産基盤整備、耕作放棄地解消、担い手育成
消費者団体(42団体)、県民・企業	[観光協会、婦人協議会、消費生活問題研究協議会、食育推進会議等] ・日本型食生活、地産地消(旬の食材利用)の実践、ご飯食の回数増加 ・6次化商品、米粉パン等米粉製品の利用促進

実施状況

1 食料自給率向上啓発活動

(1) ホームページ・地域メディア等を活用した啓発推進

- ・フードアクション備中（HP）の情報発信の拡充
- ・ラジオ番組出演による自給率向上・地産地消運動の呼びかけ（啓発）  
RSKラジオ：7/9、3/22  
FMくらしき：6/9、7/15、7/19～21（20秒スポットCM）、9/28  
10/1～5（20秒スポットCM）、11/1、2/7、
- ・市町・農協広報誌への啓發文掲載
- ・ロゴマークの印刷物への掲示
- ・倉敷駅西ビル大型テレビSky-TVでのCM放映（10月1日～11月30日）
- ・公用車等への啓発ステッカー貼付による啓発（10月1日～）



(2) 食料自給率向上対策会議の活動促進と構成団体の連携強化

- ・備中地域食料自給率向上対策会議総会の開催（10月4日）
- ・備中地域食料自給率向上対策会議幹事会の開催  
6/9：活動計画の検討、意見交換会      10/4：今後の活動について  
9/15：強化月間（10月）活動内容の検討      3/4：次年度活動計画の検討、意見交換会

- ・Food ACTION NIPPON推進パートナーに登録（6月1日）
- ・自給率45%運動推進キャッチフレーズ募集（7月1日～7月30日）



応募総数：169作品、応募者数：122人

最優秀作品『食べてにっこり備中産 上げてにっこり自給率』

- ・キャッチフレーズを活用したPRの展開

- ①車用マグネットステッカー（400枚）
- ②入賞作品シール（5,000枚）
- ③缶バッジ（1,000個）



- ・私のフードアクション募集

\*食料自給率向上への思いを絵、書、短歌等で表現

（応募点数）絵：13点 書：182点

→HP、おかやま地産地消協力店等で展示



- ・わたしのアクション1000の宣言を募集（4月1日～3月31日）

（宣言数）1,348点（2011.2.28現在）

→各種イベント等で募集し、HPで公開



- ・小中学生や消費者を対象とした食料自給率向上出前講座の開催（12回）

- ・10月を食料自給率向上月間として重点的な取組を実施

10/1：街頭啓発活動（倉敷駅前：啓発チラシ等の配布）

食料自給率向上45%運動推進キャッチフレーズPR出発式

\*「にっこり隊（45%運動推進員）」結成

10/1～：各地域での街頭啓発統一行動への支援・協力



10/27～11/ 7

：天満屋倉敷店にて食料自給率向上を考えるパネル展を開催 ～デパ地下で野菜畑をつくろう～

- ・食料自給率の自己診断に向けた「食料自給率向上かんたん計算ソフト」の研究（作陽大学監修）



### （3）米粉・米粉製品の普及、活用推進

- ・米粉の活用方法等を検討する「米粉部会」の設立
- ・新見市米粉利用促進協議会の設立(5月26日)及び講習会等の活動支援
- ・米粉研修会の開催(6/17、8/8、8/11、8/20、2/23)
- ・米粉フェアの開催(11/14 新見市)
- ・RSKラジオによるPR(7/17)
- ・意見交換会(1/28)
- ・米粉レシピ、米粉料理試作見学会(2/24 食と器専門学校)
- ・備中地域米粉レシピ本の作成  
「米粉な毎日」A5 12頁 20,000部
- ・米粉利用促進用チラシの作成  
「米粉を使った家庭料理レシピ」A4両面 5,000枚



## 2 地産地消の推進と地域食材のPR

### （1）直売所の新魅力発見

- ・直売所を活性化し、魅力ある直売所づくりを進める為「直売所新魅力発見セミナー」を開催  
8月26日：サンロード吉備路コンベンションホール  
講師：地産地消仕事人・勝本吉伸氏  
「直売所の魅力と今後の方向性～消費者ニーズと生産者の役割から考える～」
- ・直売所新魅力づくりモデル事業  
葡萄浪漫館(井原市)において、ピオーネ等の「干し葡萄」や2次加工品(パン等)を試作し、ブドウの無い時期の新商品開発に向けたモニタリング(11月28日)を実施

### （2）展示会・商談会等の開催支援（あぐり倶楽部プロジェクト）

- ・あぐり倶楽部(意見交換の場)を創設  
生産者と地産地消に関心のある料理人や流通関係者等実需者の相互理解を深め、連携して食材や商品のこだわりを情報発信する取り組みを進める為、22年9月から毎月第一水曜日に意見交換会を開催  
第1回：9月 8日、第2回：9月28日、第3回：11月10日、第4回：12月 8日  
第5回：1月 5日、第6回：2月 9日、第7回： 3月 9日(予定)  
参加者：約60名  
(生産者19、直売所7、JA5、加工6、小売2、製造1、レストラン・ホテル・観光15、行政5)



- ・備中農園倶楽部の設立(平成23年1月28日)

備中地域のこだわり農林水産物の生産者等を「組織化」とともに、組織及びその生産物等をブランド化し、販売面で差別化を図る「ロゴ」を作成

参加者：39人(組)

(有機農産物、特別栽培農産物、高糖度トマト、西洋野菜、ハーブ、米粉 等)



- ・備中地域の旬の食材を紹介する「旬のカレンダー」を作成(4種 1,000部)

- ・展示商談会(備中の恵み!農林水産物商談会)を開催

新たな販売先を模索するため、生産者自らが実需者にPRする展示商談会

日時：平成23年2月28日 13:00~15:30 出展団体：39ブース

場所：倉敷アイビースクエア

商談参加者：80社(ホテル、レストラン、スーパー 等)



- ・備中農園レストランの指定

備中地域のこだわり農林水産物やその加工品を利用したメニューを提供するホテル・飲食店を登録し、備中地域の「食と農」を情報発信する場づくりとする

登録店：30店(H23.3月末現在)



### (3) 女性ネットワーク員(食農推進パートナー)による地域特産品の活用推進

- ・備中地域の農林水産物や加工品を広くPRするとともに、食と農をより身近に感じてもらう機会づくりとして、地域の特産品を調理し、食に関する意見交換を行う「特産品トーク」を開催 ~備中地域特産品で食と農をつなごう~

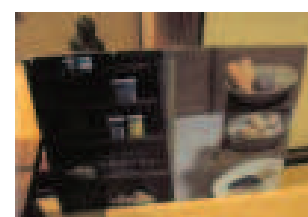
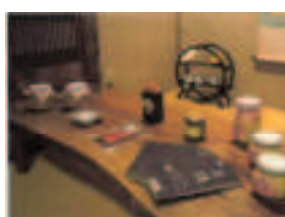
第1回：平成22年 8月11日 倉敷市(ライフパーク倉敷) [有井京子]

1 day キッズシェフ・ビビッとKitchen! ~地域食材を活用した料理作り~  
30名：小学生とその保護者



第2回：平成22年11月22日 総社市(珈琲と人) [有井京子、加藤せい子]

秋食を楽しむ・ビビッとKitchen! ~加工品を活用した新たなレシピづくり~  
21名：一般消費者



第3回：平成23年 1月19日 高梁市(元仲田邸くらやしき) [江草聡美、渡辺吉子]  
冬食を楽しむ・ビビッとKitchen! ～地域特産品の良さと活かし方～  
23名：岡山県栄養士会高梁支部、生活交流グループ員等



- ・特産品開発に向けた女性ネットワーク員(食農推進パートナー)の派遣
  - 第1回：平成22年12月1～9日 ・ 派遣：有井京子・加藤せい子  
総社市総社 週末カフェ・きび工房「結」にて“あきのごはん”をメニュー化
  - 第2回：平成23年1月31日 ・ 派遣：有井京子  
新見市米粉利用促進協議会へ米粉レシピ提供
  - 第3回：平成23年2月23日・ 派遣：加藤せい子  
備中地域特産品啓発活動研修会  
講話「地域とともに育てる特産品づくり」
  - 第4回：平成23年2月24日・ 派遣：有井京子  
新見市米粉利用促進協議会の米粉レシピ冊子作成協力

#### 成果・効果

- 1 食料自給率の向上を目指した地産地消運動の啓発活動として、HPの充実やCM放映、ラジオ、自給率向上45%運動推進キャッチフレーズの募集及びキャッチフレーズを活用したステッカー等による広報、小中学生等を対象とした食料自給率向上出前講座の実施等により食料自給率向上に対する理解が深まるとともに意識の高揚が図られた。
- 2 米粉・米粉製品の活用推進として、対策協議会内へ「米粉部会」を設立し、研修会や意見交換会等を開催、新見市での米粉フェアの開催、また、備中地域米粉レシピ本「米粉な毎日」やチラシ「米粉を使った家庭料理レシピ」作成等を行うとともに、米粉販売店等へ冊子を配布し米粉・米粉製品の活用促進を図った。
- 3 直売所の新魅力発見として、「直売所新魅力発見セミナー」の開催や葡萄浪漫館(井原市)での新商品開発に向けたモニタリング実施をモデル的に行うことにより、直売所自らが消費者へ新しい魅力を伝える方策を模索しはじめた。
- 4 備中地域農林水産物のPRとしては、「あぐり倶楽部」を創設(H22.9.8)し毎月1回意見交換会を行いながら生産者と実需者の相互理解を図ってきた。  
また、参加した生産者の声によりこだわり農産物の生産者組織として「備中農園倶楽部」を設立(H23.1.28)し、会員が自らが販売する意欲が芽生え始めた。  
これにより、生産者自らが実需者にPRする展示商談会「備中の恵み!農林水産物商談会」の開催(H23.2.28 倉敷アビエースクエア)に「備中農園倶楽部」として参加するとともに、これを契機に実需者へ生産物を持参し商談を試みる生産者もではじめた。  
備中地域の農林水産物の活用促進として、「備中農園レストラン(備中の食と農を情報発信する場)」指定制度を開始し30店舗が指定店となった。(H23.3月末)
- 5 様々な職能・価値観を有する女性7名からなるネットワーク「ビビッと食農!プロフェッショナルチーム2009」のメンバーを、既存の地域食材・加工品の魅力アップや新たな魅力づくりを提案し、地域特産品の開発を支援する「食農推進パートナー」として派遣を行った。  
また、地域食材・加工品の新たな利用法を提案した冊子「たいせつなひとに、うちのごはん。」を活用したキッズKitchenの開催や消費者との意見交換を交えた特産品トーク等の開催により食と農の大切さを実感するとともに農の必要性を再確認する機会となった。